学校番号	T3017

令和８年度　学校設定教科

教科	（学）チャレンジ	科目	（学）異文化理解Ａ	単位数	１単位	年次	１年次
使用教科書	なし						
副教材等	なし						

1　担当者からのメッセージ（学習方法等）

現在、多くの外国籍の方が日本に居住しており、グローバル化が急激に進んでいます。より多様な思想や文化を学び、それらを自らの生き方に反映させていくことが必要となります。教室での座学だけでなく、実際に異なる文化を持つコミュニティ（在日外国人コミュニティ、海外の現地社会など）に飛び込み、理論だけでなく実践として異文化を理解することを目的とします。自分の価値観が「世界の中の多様な価値観の一つ」であることを知り、グローバル社会で求められる柔軟性、判断力、そして多様な人々との共生意識を養いましょう。

2　学習の到達目標

【知識及び技能】
世界の文化や習慣、社会構造の多様性について知識を習得し、自身が訪問・交流した文化圏の固有の価値観を正確に表現し、説明することができる。
【思考力、判断力、表現力等】
異文化環境での具体的な体験を多角的に分析し、文化の違いによって生じる課題や自身の固定観念について考察・判断し、それをレポートやプレゼンテーションで論理的に表現することができる。
【学びに向かう力、人間性等】
未知の文化に対する強い探究心と好奇心を持ち、現地の人々や在日コミュニティの構成員と主体的に交流しようとする姿勢を身につける。

3　評価の観点及びその趣旨

観点	a:知識・技能	b:思考・判断・表現	c:主体的に学習に取り組む態度
観点の趣旨	海外研修やフィールドワークの体験内容、及びそれに付随する異文化に関する知識を正確に整理し、異文化理解の成果をレポートや成果物として明確に表現できている。	異文化体験から得られた自身の固定観念の打破や、多様性に対する洞察を論理的に考察し、説得力のある表現で自らの進路や社会との繋がりを見出そうとしている。	海外研修やフィールドワークにおいて、積極性をもって他者と交流し、文化的背景や習慣を学ぶ意欲が強くみられる。また、異文化特有の課題に対して粘り強く対応しようとする姿勢がみられる。

上に示す観点に基づいて、学習のまとまりごとに評価し、学年末に５段階の評定にまとめます。学習内容に応じて、それぞれの観点を適切に配分し、評価します。

4　学習の活動

学期	単元名	学習内容	単元(題材)の評価規準	評価方法		
				知(a)	思(b)	主(c)
集中講座	事前学習	・訪問先の文化(歴史、習慣、社会構造)に関する基礎知識のインプット(ミニレクチャー) ・異文化コミュニケーションの基本スキル(非言語、傾聴)の学習とロールプレイング。 ・パスポート取得について	a: 訪問先の文化に関するクイズや小テストで、基礎知識を正確に理解している。 b:身につけた教養について、今後の進路選択においてどのように活用していくかの考えを表現できる。 c: ロールプレイングに積極的に参加し、異文化交流の基本姿勢を身につけようと努めている。	学習ワーク等	レポート等の自己表現課題	取り組み姿勢の観察
	海外研修・フィールドワーク	・コミュニティの歴史や生活、文化施設を見学し、コミュニティの構成員と簡単な交流を試みる。 ・異文化が日本社会にもたらす影響と共生について、体験を通して考える。	a: 体験した文化の違いについて、口頭での報告や写真付きの記録で具体的に説明できている。 b: 研修中のグループワークにおいて、多様な意見を調整し、効果的な解決策を導く表現ができている。 c:主体的に質問や交流ができている。	学習ワーク等	レポート等の自己表現課題	取り組み姿勢の観察
	事後学習・発表	・研修やフィールドワークの体験を振り返り、個人レポートを作成する。 ・異文化交流で学んだ「多様性の受容」と「グローバルな視点」を、将来の進路にどのように活かすかを明確にする。 ・成果発表会(プレゼンテーション)を実施し、全生徒と共有する	a: 個人レポートで、研修・フィールドワークの全容と自身の学びを体系的に整理できている。 b: 成果発表において、異文化体験から得た洞察を、今後の進路選択に結びつけて表現できている。 c:プレゼンテーションに意欲的に取り組んでいる。	レポート等の自己表現課題	レポート等の自己表現課題	取り組み姿勢の観察

※　表中の観点について　a:知識・技能　b:思考・判断・表現　c:主体的に学習に取り組む態度